

# 恋よりどきどき

コンテンポラリーダンスの感覚



**2005年10月1日(SAT)・11月13日(SUN) 東京都写真美術館 | 2階展示室**

コンテンポラリーダンスの感覚

2001年、舞踊界に衝撃を与えた20歳、2人から成る日本の舞踊グループ「ホウホウ堂」の初舞台。2004年、東京コンパニオン・カンパニーの設立。2005年、東京コンパニオン・カンパニーの設立。2005年、東京コンパニオン・カンパニーの設立。

## 恋よりどきどき

コンテンポラリーダンスの感覚

10月1日(土)・11月13日(日)

東京都写真美術館では「開館10周年特別企画展」として大規模な展覧会の数々を開催しております。本展は現代表現の注目すべきメディアとして「身体」に着目し、昨今話題を集めているコンテンポラリーダンスを国内美術館で展覧会として初めて取りあげるものです。

コンテンポラリーダンスは1980年代後半に萌芽して1990年代以降に現在に至るまで発展し、演劇、美術、サブカルチャー等のジャンルを超えて表現領域を広げ続けています。各表現者の個性的な身体で百花繚乱のごとく表現される作品は、日常の何気ない生活や笑いのためのリラックスしたものであり、日々降り積もるストレス、避けることのできない生と死や愛の問題まで幅広い要素で構築されており、まさに身体がコミュニケーションと呼吸を繰り返しているように感じられます。

この企画は、展示室を中心とした美術館内のさまざまな空間で、身体の内面を再認識するような表現が繰り返されます。これらの多様な作品を結びつけるのは、私たちの身体です。身体そのものが共鳴したり、ストレスを感じたりして起こる「どきどき感」は余韻として体内にとどまり、時に日常生活を楽しく力づける、時に真摯に舞臺へ踏み込むための、ポジティブな活力の源となるでしょう。

### 「展覧会」インスタレーション

国際的に活躍している日本のコンテンポラリーダンス界代表3カンパニーが企画、制作した新作でインスタレーション展示します。

- CONDORS**
  - コダワリス 国際競争力
  - 2005年朝日賞受賞者。TBS「情熱大陸」出演(09/25/11)など、話題に事欠かない。近年、自らのダンス・カンパニー「CONDORS」を立ち上げ、国内外の舞臺で活躍中。
- Strange Kinoko Dance co.**
  - 珍しいキノコ舞踏団(伊藤千穂ほか)
  - アーティスト、生活家、ミュージシャン、DJの4つのジャンルを兼ね備え、舞臺からライブまで、多岐にわたる活動中。2004年に「花」をテーマにした作品を発表し、話題を呼んだ。
- Nibrol**
  - ニブロール
  - ダンス・パフォーマンス、ファッション、多分野のアーティスト。2004年に「花」をテーマにした作品を発表し、話題を呼んだ。

### 10 NOV

2 日

3 火

4 水

5 木

6 金

7 土

8 日

9 月

10 火

11 水

12 木

13 金

14 土

15 日

16 月

17 火

18 水

19 木

20 金

21 土

22 日

23 月

24 火

25 水

26 木

27 金

28 土

29 日

30 月

31 火

### 11 NOV

1 水

2 木

3 金

4 土

5 日

6 月

7 火

8 水

9 木

10 金

11 土

12 日

13 月

### コンテンポラリーダンスの感覚

10月1日(土)・11月13日(日)

東京都写真美術館 | 2階展示室

2001年、舞踊界に衝撃を与えた20歳、2人から成る日本の舞踊グループ「ホウホウ堂」の初舞台。2004年、東京コンパニオン・カンパニーの設立。2005年、東京コンパニオン・カンパニーの設立。

2005年10月1日(SAT)・11月13日(SUN) 東京都写真美術館 | 2階展示室

コンテンポラリーダンスの感覚

2001年、舞踊界に衝撃を与えた20歳、2人から成る日本の舞踊グループ「ホウホウ堂」の初舞台。2004年、東京コンパニオン・カンパニーの設立。2005年、東京コンパニオン・カンパニーの設立。

## Rosas XXV 1980-2005

ダンス、空間、そして音楽の軌跡

ローザスとアンズ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルの25年

10月1日(土)・10月30日(日)

ベルギー・ブリュッセルを拠点に、80年代以降のコンテンポラリーダンスシーンを世界的にリードしてきた振付家アンズ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル率いるカンパニー「ローザス」。ベルギー国立モネ劇場のレジダンス・カンパニーとして、パリ・オペラ座やニューヨーク・リンカーンセンターなどで作品を上演し、高い評価を獲得しています。今回はその「ローザス」25年の軌跡を写真及び映像インスタレーションを中心に、凝縮して展示する初の展覧会企画です。ローザスの歴史を彩る写真や映像を通して、ローザスの特徴である身体運動と音楽、空間の関係性にスポットを当てます。同時にベルギー、フランドルの文化を体感していただけるでしょう。

Violin Phase / Top Shot by Thierry De Mey (映像インスタレーション)

ヴァイオリン・フェーズ/トップショット 監督 ティエリ・ドゥ・メイ

ヴァイオリン・フェーズの同名曲と共に構成されたローザスの記念碑的作品。真白い砂を敷きつめたフロアにアンズ・テレサのソロのトップショットが投影される。砂上に振付の軌跡が描かれていく映像インスタレーション。

Photographs by Herman Sorgeloos (モノクロ写真、約150点)

ローザスの歴史を辿り、高かつ写真自体としても確固としたポテンシャルを有する、印象紙に定着された身体表現。

Vocabulary by Alichia Van der Avoort (映像インスタレーション)

ヴァイオリン・フェーズによるアンズ・テレサの振付言語の解析。

Monologue van Fumiyo Ikeda / op het einde van Ottone ottone (映像インスタレーション)

ローザスの演劇性、実験性、革新性を垣間見ることのできる衝撃的映像。

10 NOV

1 日

2 月

3 水

4 木

5 金

6 土

7 日

8 月

9 火

10 水

11 木

12 金

13 土